

表8 せん妄の回復可能性とケアのゴール

	回復可能	回復困難
典型的な原因	電解質異常、薬物、貧血、炎症反応	臓器不全、脳転移
ケアのゴール	せん妄からの回復	せん妄症状の緩和
薬物療法	抗精神病薬を用い、ベンゾジアゼピンは最小限使用	適宜ベンゾジアゼピンの併用を行う
ケアの内容	見当識の回復、生活リズムの補正、家族のケア	不穏症状の緩和、睡眠確保、家族のケア

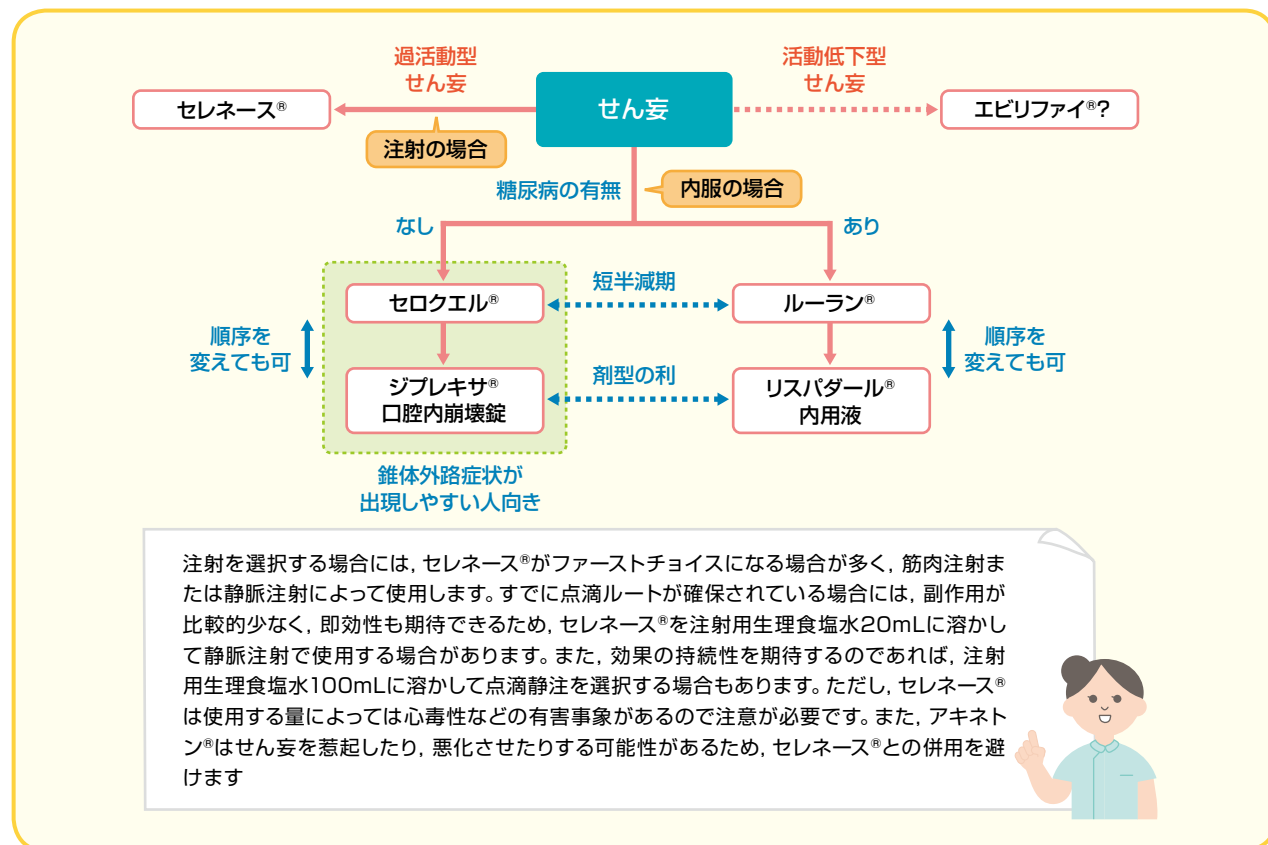


図4 せん妄の薬物療法アルゴリズム案（文献2を参考に作成）

せん妄に対する非薬物療法的介入

せん妄が発生した場合のケアは、大きくは患者の「内部環境の安定性を保持するケア」「外部環境の安定性を保持するケア」「家族へのケア」の3つに分けられると思います。せん妄に対する看護ケアのプロトコルを図5に示します。

内部環境の安定性を保持するケア

患者の身体内部の環境を安定的に維持するためのケアであり、具体的には適正な水分・電解質のバランスの保持、正常な酸素化の保持、正常な血圧の保持、正常な排泄パターンの保持、正常な睡眠－覚醒パターンの保持、適正なセルフケアレベルに応じたケアを計画・実施することです。

図5 せん妄に対する看護ケアのプロトコル

外部環境の安定性を保持するケア

治療環境を患者がどのようにとらえているかを知り、不快や不安をできるかぎり患者に与えないように、物理的・人的環境を整えます。

物理的環境を整えるケアとしては、患者に合った眼鏡や補聴器を装着することや、不必要なラインや拘束を除去すること、音や光を適正レベルに調整すること、時計やカレンダーを活用して見当識を補うことなどが挙げられます。

人的環境を整えるケアとは、Y・H・W（ゆっくり・はっきり・わかりやすく）を意識したり、「今から血圧を測りますね」などと1度に1つのことだけ伝えたりするなどコミュニケーションの仕方を工夫することや、患者が幻覚や妄想などの

病的体験を訴えたときには「私には見えませんが、虫に見えたんですね。それは怖かったですよね」などと感情に焦点化して応答することなど、かわることによって患者に安心感を届けるケアを提供することです。せん妄の場合でも患者の感情は保たれているため、せん妄のときに受けた医療者の乱雑な言動や否定的・冷淡な対応などによって傷ついた感情体験は、せん妄から回復した後にも残っていることが多いので、支持的で温かい対応を心がけましょう。

家族へのケア

患者がせん妄になると、家族は突然患者がつじつまの合わない奇妙なことを言いだすことなどに困惑し、どう対応してよいのかわからなくなって